

第2回未来デザイン会議（丹波地域）概要

日 時：令和2年10月4日（土）13:00～15:00

場 所：丹南商工会館会議室

委託先：一般社団法人BEET

参加者：丹波篠山市 2名

丹波市 1名

オンライン参加 丹波市 2名

主に前回の続き作業、今回初参加となるメンバーのため前回と同様の概要説明等も行った。

I 概要

- ・今回は、2050年の未来の姿のアイデア1,000個に向けてアイデアのヒントを作成。
- ・今後、〇〇×〇〇のヒントをもとに各自アイデアをGoogleスプレッドシートで作成。
- ・最終的にアイデアを冊子にして、共有。

II 内容

1 趣旨説明（細見氏、本多氏）

第1回と同内容のため、省略

2 アイデア出し

- ・前回出た、魅力・課題と未来で起こることを掛け合わせてアイデアをつくる。
- ・全体で1,000個のアイデアを目指し、ひとり50個目標。
- ・前回終了後からもアイデアの種は徐々に増加しているが、皆結構慎重で、もう数年後には現実可能なアイデアが多い。30年後など誰も想像しえないものが増えるので、もっとぶっ飛んだ発想も必要。
- ・会議は5回行う予定で、今回はその2回目。遠方の人、時間的に参加が厳しい人はオンライン参加も可能で今回も2名がオンライン。ただし、5回目は対面で集まる必要がある。Googleのスプレッドシートはいつでもアクセスできるので、都合が合わない人は自宅等で作業する形でもよい。
- ・Googleのスプレッドシートを共有して、どんどんアイデアを入力してもらおう。
- ・最終的には冊子にして、共有する。

<アイデアの構成>

タイトル	概要	背景	効果
------	----	----	----

<アイデア例>

支援×エンタメ→田舎都会合同まつりの実施

〈背景〉田舎のまつりは地域の人が集まって行うだけ

〈効果〉都会の人に配信などでPRすることによって、移住促進につなげることができる。

自然豊か×宇宙進出→未来に残したい種を宇宙に持っていく

〈背景〉未来に残したい姿が丹波にはある

〈効果〉各自治体の宇宙プラントを持つことで残したいものをキープできる

農業×AI→農業の全自動化が進んで国が農業を支配する。丹波地域がその見本に。

〈背景〉大学教授の研究で衛星で日照時間を計って日当たりいいところの米だけを収穫してブランド米とするというものがあった。これでは、場所によって収入の差が大きくなる。

〈効果〉国営化することで収入の差がなくなる

上記のアイデアから意見交換

- ・物質のポーションはすでに実証されている。そうすると収穫された野菜が光の早さで送られてくることもあるかもしれない。
- ・農業が全自動化すれば配送まで一元化されるのでスピードアップはする。
- ・丹波ならではのということなら、枝豆のバーチャル収穫をして、それがポーションですぐ届くとなるといいな。ただ、ブランドを守るためにはいまいち。それよりは、すぐに収穫しに来れる方が地域の強みになる。
- ・これから金持ちは住環境のいい田舎に住むようになる。なら、住宅開発が頓挫したところを広い区画で販売して山の中ベッドタウンができるのではないか。
- ・やっぱり人と人が面と向かって話すことも大事。そのため、オンライン会議はもっとリアル感をだしてアバター的な集まりで会議をするようになる。

<B E E T P L A N Tのルール (アイデアだしのルール) >

- ・質より量
- ・否定・批判禁止
- ・自由奔放
- ・便乗OK

- ・今回はタイムアタック形式で30分でタイトルと概要だけだしていく。
- ・家で背景と効果を記入しといてください

<アイデア例>

Aさん：14個

○田舎映え×言語の壁

→写真には言語の壁がない。これによって、バーチャルで丹波地域を旅行した気分になれる。

○高齢化×田舎崩壊

→一から自分たちの町が作れる

○スローライフ×戦争

→農業が全自動化してゆっくりしていると争いもおきない

Bさん：4個

○支援×趣味で生きる

→趣味のレベルで給料が支払われると好きなことが仕事となっているので、仕事のつらさがなく、自殺者も減る。

○支援×言語の壁

→田舎の方が多言語を使える人が少ないので、耳につけているだけで言語を翻訳してくれる。方言に適応したものならなおよし。

Cさん：1個

→専門性に特化した地域になるとよい。

(本多) 地域はこれから何かに特化していないと生き残れない時代

(細見) 特区で義務教育の時代から特徴のあるものに。スローライフを送れる。

Dさん：3個

○地域×教育

→丹波篠山独特の魅力ある教育の場にする。小学校教育、幼稚園教育に重点をおいて、広さを活用してアスリート教育や音楽家の育成。大人が丹波地域で暮らしたいと思えると子どもはついてくる。

(細見) 音楽をしたい人が町中で防音施設を作るより丹波篠山を音楽特区とかにして誰でも気軽に音楽ができる地域にすることは魅力のひとつとなる。死んでる土地4区画を半分で利用とかできる。

Eさん

○観光×AI

→AIを用いたオンデマンド交通を利用して秘境案内。滝とか山奥の有名な人の墓とかも見学可能になる。そのためのワーケーション施設を作る。趣味と仕事を両立できる施設。リモートどころかバーチャルに近い施設。

本多氏：23個

○スローライフ×田舎の概念が変わる

→AI共産主義の推進によって丹波地域はスローライフ地域になる。田舎は発展させる必要がない。ただ、スローライフをしたい人だけが集まる。

○スローライフ×電腦空間

→自然豊かな丹波地域で電腦空間を楽しむ

○獣害・虫問題×戦争

→動物とコミュニケーションがとれるようになったという想定で、獣害に触れた動物は敵地へ。動物を兵士に。

(まとめ)

いろいろなアイデアを妄想してください。

最終的にアイデアをカテゴライズしていきたい。偏った発想やアイデアはカテゴライズしていきやすい。

次回(3回目)も大量生産を目指す。また、アイデアが固まってきたという相談も受けるので、Zoomでアイデアゆるめ会を開催する。

<会場の様子>

